

西要寺だより

第110号 令和5年6月6日

●永代経法要をお勤めしました

令和5年5月22日23日の両日、永代経法要をお勤めしました。両日ともお天気が良く、午後2時より『仏説阿弥陀経』を参詣者の皆さまと一緒に勤めし、午後2時40分頃からご法話を聴聞しました。

ご講師は、本願寺派布教使 吹田市大光寺前住職 清岡隆文先生で、

もう40年近く、西要寺に来ていただいている先生です。本願寺派のなかでも、いわゆるレジェンド（巨匠 大物）と言ってもいいほどの先生だと私は思っています。ご法話のなか、印象に残った内容を少しばかりお伝えします。

まず、お釈迦さまの説かれた「お経」は「鏡」にたとえられます。皆さんの家にある「鏡」は〈自らの容姿を確認する〉ためにありますが、「お経」にたとえられる「鏡」は〈心を映し出す〉ためのものです。

仏教の話をお聴聞することを通して、自らの心の有様を確認することができます。人は容姿よりも、心の方が大事でしょう。そこで仏教の話をお聴聞することが大事になってきます。そもそも、お経を読む（読誦 どくじゅする）こと、永代経法要では『仏説阿弥陀経』を参詣者の皆さまとともに勤めしましたが、お経は漢文体で書かれているために、その内容を理解することが難しいですね。重ねて言いますが、仏教の話をお聴聞することが大事ということになります。

2日間にわたり、さまざまな仏教の内容のことを非常にわかりやすく話をして下さいました。

ご参詣ありがとうございました。



永代経法要の時は、お内陣を写真のようにお飾りします。

続きまして、前号の「西要寺だより」に続き、昨年度の法座のご報告をします。

・定例法座（3月）

3月の定例法座では、講師の先生より悪人正機（あくにんしょうき）のお話をしていただきました。悪人正機とは、「悪人こそ救いの対象」ということです。「えっ、何で悪人こそが救われるのか」、と疑問に思われることでしょう。実は、阿弥陀さまの慈悲の心をあらわしているのです。

仏教の基本的な教えは、廃悪修善、つまり「悪い行いをやめて善い行いをしましょう」、ということです。「悪い行い」、「善い行い」の「行い」には、体を使って行動する、また言葉を発するというだけでなく、心で思うことも仏教では「行い」に入ります。したがって、心のなかで善くないことを思うことも仏教では「悪」とされます。そうなりますと、「悪い行い」をやめることは非常に難しいことです。だからといって、「悪い行い」をしてもいいというわけではありません。その「悪」を自覚し、少しでも「悪」を無くしていくことが大事です。

仏教の教えを聞くことを通して、如来さまはその「悪」を教えてください、とお願いしていると思いき、それでもまわりの人たちによって生かされている、もつという、目に見えないはたらきである如来さま、阿弥陀さまによって救いのはたらきをしていただいていると自覚していくことが大切なのです。

さて、「悪人こそが救いの対象」ということを説明するのに、非常にわかりやすいたとえ話があります。七子のたとえ、という話で、經典に説かれています。七人の子を持つ親の愛は七子に平等にかけていますが、もし重い病にかかった子があれば、親の心配はひとえに重病の子に重くかけられます。それが「悪人正機」なのです。阿弥陀さまの慈悲の心をあらわしているのです。

なお、毎月22日午後2時より定例法座をお勤めしておりますので、気軽にご参詣ください。

●西本願寺の法要に参詣しました

西本願寺におきまして、親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年慶讃法要がお勤めになっていました。令和5年3月29日から5月21

日まで、5期30日にわたって法要が行われ、参詣者は総計7万5千人だったようです。



西要寺としましては、3月29日と、5月10日に、門徒さんと一緒に参詣しました。西本願寺では、参詣される人が高齢の方もおられるということで、堂内に入る前には検温等、新型コロナウイルス感染対策をしていました。両日ともに、法座に参詣する人数を制限、事前に参詣人数の申し出をしないとイケないということもあって、主に月参りの際に、法要への参詣者の募集を行っていました。その関係上、お参りに行きたかったという方にお声がけできなかったことを、お詫びいたします。

今後も機会があれば、西本願寺で勤まる法要に門徒の皆さまと一緒に参詣することを計画したいと考えています。その際は、マイクロバスを借りてあまり歩かなくてもいいように、楽に行けるように考えていきたいと思っておりますので、その際は、是非、ご参加ください。マイクロバスを運転してくださる方（大型車の免許をお持ちの方）も募集します。



○ご報告

私（住職）は、今年の3月まで、月曜日から金曜日には京都の浄土真宗本願寺派総合研究所に行き、研究員として宗派の仕事をしていましたが、今年3月末に研究所を退職しました（定年〇〇ではありません…）。前住職も高齢になってきたこともあり（まだまだ元気ですが（^0^））、私（住職）は西要寺の仕事を専業とすることにしました。

今まで龍谷大学にも出講していましたが、今年はお休みとなりました。実は龍谷大学の、特に真宗学の非常勤講師のシステムとしまして、3年単位で組まれていまして、昨年度でちょうど3年目となります。これまでの出講年を合計しますと、延べ20年ほどになりますね。

そのようなことで、私は西要寺に在寺している時間が、以前よりも長くなります。午前はお参りに行っていますが、午後、月参りや法事がない場合は在寺していますので、何なりとご相談があれば、お越し下さい。

ただし、お寺に来られる場合はあらかじめ電話をしていただくと有り難いです。

◎今後の西要寺行事予定◎

【定例法座】

6月22日(木) 午後2時より(終了予定:午後4時過ぎ)

講師:塚本 一真師

(京都女子大学講師 浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員)

【定例法座】

7月22日(土) 午後2時より(終了予定:午後4時過ぎ)

講師:富島 信海師

(龍谷大学講師 浄土真宗本願寺派総合研究所研究員)

場所:西要寺本堂

【盂蘭盆会法要】

8月13日(日) 14日(月)・15日(火) いずれも午前11時より

場所:西要寺本堂

(終了予定:正午過ぎ)

(※過去帳をご持参ください)

ホームページ
(saiyouji.com)



インスタグラム
(saiyouji.a)



YouTube
(ユーチューブ)



LINE
(ライン)



浄土真宗本願寺派

西 要 寺

〒661-0024
尼崎市三反田町1丁目7-27

電話 06-6429-8241
FAX 06-6429-8239